

2024年度 第2四半期 決算説明資料



2024年11月12日

株式会社三井E&S



■ 2024年度 第2四半期 決算説明	頁	■ 参考資料	頁
➢ 概要	3	➢ 設備投資・研究開発費・従業員数	15
➢ 2024年度 第2四半期 決算概要	4	➢ 舶用エンジンの状況	16
➢ 2024年度 第2四半期 連結貸借対照表の概要	5		
➢ 2024年度 第2四半期 連結キャッシュ・フローの概要	6		
➢ 2024年度 第2四半期 セグメント別決算概要	7-10		
■ 2024年度 見通し			
➢ 2024年度 連結業績通期見通し	11		
➢ 2024年度 第2四半期 進捗状況	12		
■ トピックス			
➢ 営業外費用の大幅な削減と流動比率の改善	13		
➢ 海外土木建築工事が完工	14		

※ 業績の安定化により、増収増益基調へ転換

<p>2024年度 第2四半期 決算概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 受注高 1,707 億円 (前年同期比 ↗) ◆ 売上高 1,450 億円 (前年同期比 ↗) ◆ 営業利益 92 億円 (前年同期比 ↗)
<p>2024年度 見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 受注高 3,300 億円 (前回発表見通し比 →) ◆ 売上高 3,000 億円 (前回発表見通し比 →) ◆ 営業利益 170 億円 (前回発表見通し比 →)
<p>トピックス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 営業外費用の大幅な削減と流動比率の改善 ◆ 海外土木建築工事が完工

(単位：億円)

	23年度 2Q	24年度 2Q	増減
受注高	1,548	1,707	+158
売上高	1,355	1,450	+95
営業利益	66	92	+26
営業利益率	4.9%	6.4%	-
経常利益	59	133	+74
経常利益率	4.4%	9.2%	-
親会社株主に帰属 する中間純利益	40	323	+283

<期中平均為替レート>

	23年度 2Q	24年度 2Q
USドル	146.95円	150.32円

■ 受注高

造船業界や港湾物流業界の活況を背景に、船用エンジンやコンテナクレーンが良好に推移した事により、前年同期に比べて増加した。

■ 売上高

前年度に過去最高の受注高を記録した物流システム部門において、コンテナクレーンの生産が順調に推移した事などにより、前年同期に比べて増収となった。

■ 営業利益

主にコンテナクレーンの工事採算が改善した事により、前年同期に比べて増益となった。

※ 経常利益

金融コストの減少と持分法投資利益の増加により、前年同期に比べて増益となった。

※ 投資有価証券の売却と有利子負債の削減により財務体質が改善

(単位：億円)

	23年度	24年度 2Q	増減	
資産合計	4,671	4,293	△379	
(現金及び預金)	356	393	+37	
(受取手形、売掛金及び契約資産)	963	897	△66	
(棚卸資産)	677	718	+41	
(有形・無形固定資産)	1,316	1,302	△14	
(投資有価証券)	761	265	△497	主に三井海洋開発株式の売却による減少
負債合計	3,206	2,665	△542	
(支払手形及び買掛金)	647	534	△113	
(契約負債)	308	352	+44	
(受注工事損失引当金)	43	17	△26	
(有利子負債)	1,620	1,060	△561	主に三井海洋開発株式の売却により調達した資金を用いて削減
純資産合計	1,465	1,628	+163	
(自己資本)	1,420	1,587	+167	主に利益剰余金の積み上げによる増加と、A種優先株式の消却(90億円)による資本剰余金の減少
(自己資本比率)	30.4%	37.0%	-	
運転資本(*)	673	706	+33	
D/Eレシオ	1.1倍	0.7倍	-	

(*) 運転資本 = 売上債権 (除く前受金) + 棚卸資産 - 仕入債務

2024年度 第2四半期 連結キャッシュ・フローの概要

※ 本業による事業活動が堅調に推移し、営業CFがプラスに転換

(単位：億円)

	23年度 2Q	24年度 2Q	増減	
営業CF	△329	41	+370	主に海外土木建築工事の終息に伴う増加。
投資CF	△19	662	+681	主に三井海洋開発株式の売却（調達資金：約700億円）による増加。
フリーCF	△348	703	+1,051	
財務CF	268	△ 675	△943	主に短期借入金の返済による減少。

2024年度 第2四半期 セグメント別決算概要

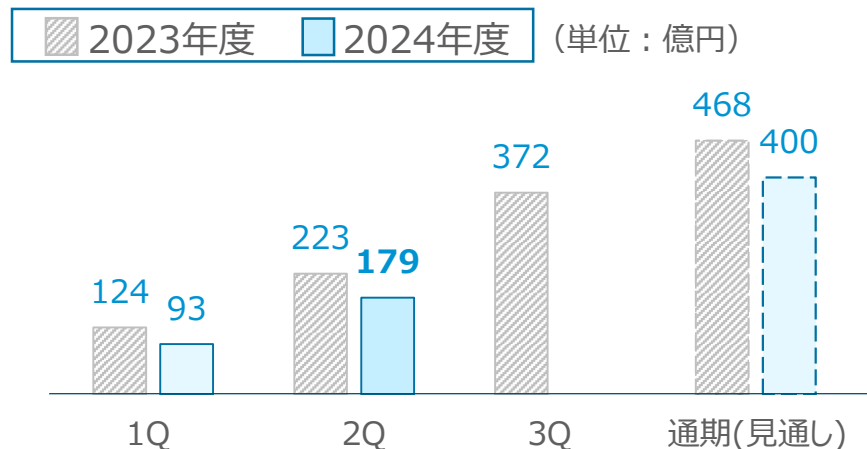
※ 中核事業である船用推進事業と港湾物流事業の牽引により、
全体の業績が向上傾向にある事を確認

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	23年度 2Q	24年度 2Q	増減	23年度 2Q	24年度 2Q	増減	23年度 2Q	24年度 2Q	増減
成長事業推進	223	179	△44	180	152	△28	20	17	△3
船用推進システム	723	894	+171	640	674	+34	38	42	+5
物流システム	350	367	+18	172	268	+96	3	24	+21
周辺サービス	252	265	+14	336	341	+4	14	5	△9
その他	1	1	0	27	15	△11	△8	4	+12
合計	1,548	1,707	+158	1,355	1,450	+95	66	92	+26

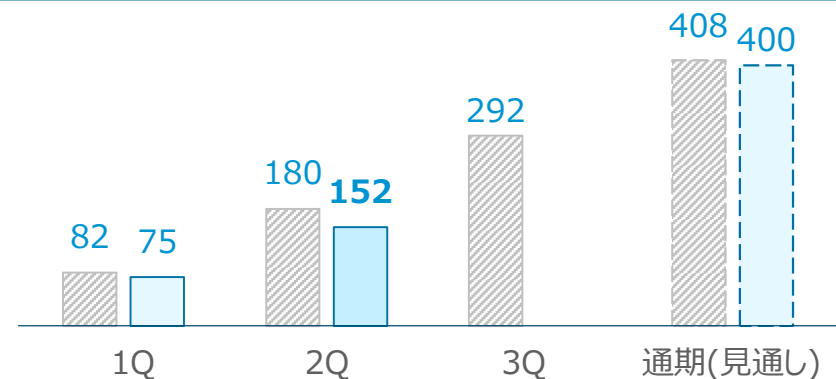
■ 受注高：前年同期比 △44億円

産業機械製品の受注月のずれや、建設機械用エンジンの減少により、前年同期と比べると減少した。



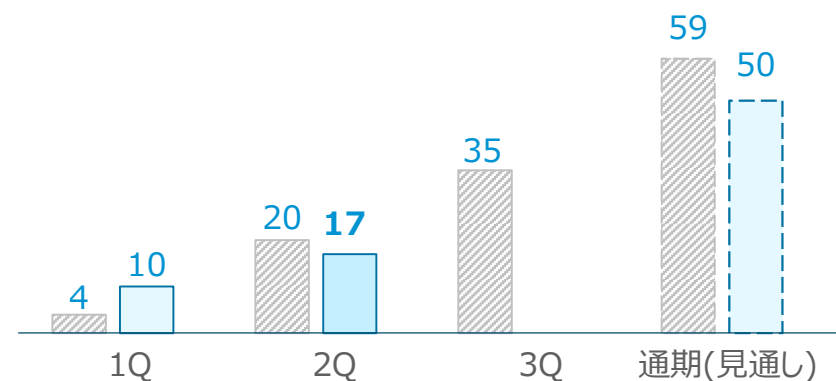
■ 売上高：前年同期比 △28億円

各種点検工事などのアフターサービス事業は堅調に推移しているが、工事規模の違いなどにより、前年同期に比べると減収となった。



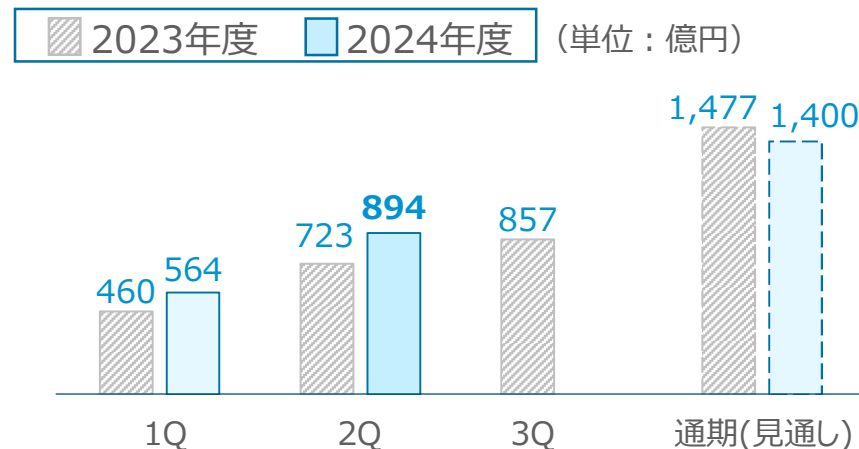
■ 営業利益：前年同期比 △3億円

産業機械製品の採算は改善傾向にあるが、前年同期と比べると、売上高の減少に伴い減益となった。



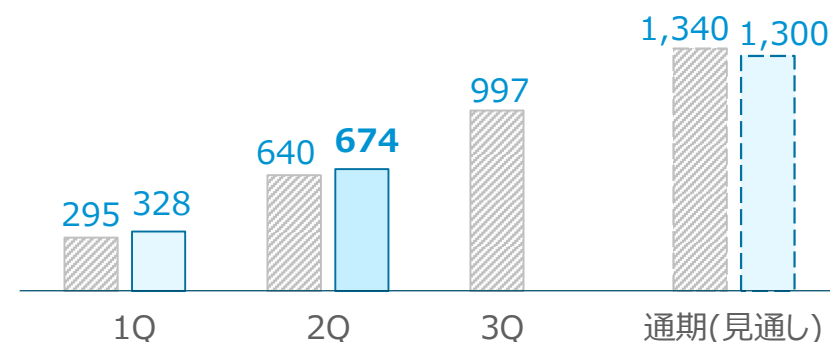
■ 受注高：前年同期比 +171億円

堅調な重油焚きエンジンに加え、CO2排出量がより少ないLNGやメタノール焚き二元燃料エンジンの需要が増加傾向にあり、前年同期に比べ増加した。



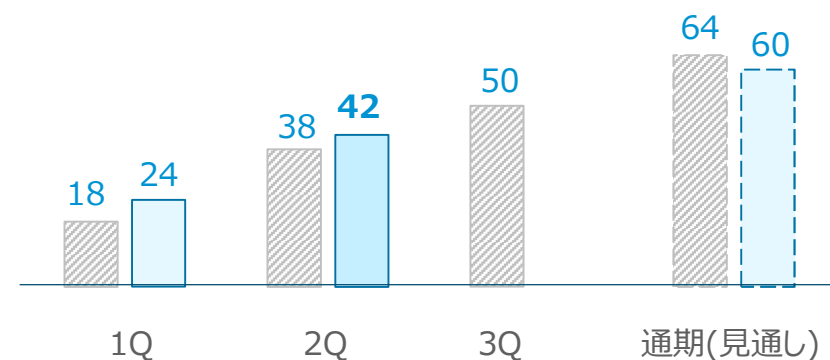
■ 売上高：前年同期比 +34億円

新造事業が引き続き高い操業度を維持している事に加え、活況な海運市況を背景にアフターサービス事業が好調に推移した事から、前年同期に比べて増収となった。



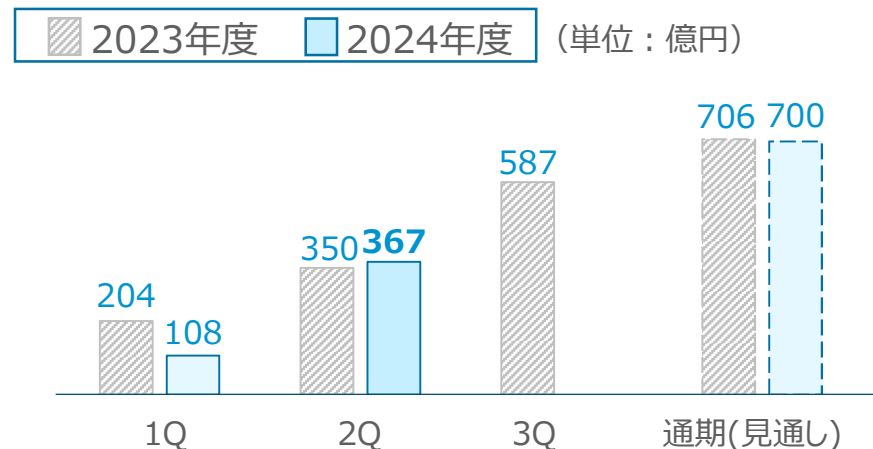
■ 営業利益：前年同期比 +5億円

新造事業とアフターサービス事業の両事業共に、好調を維持しており、資機材高騰の影響を受けているものの、前年同期に比べて増収による増益となった。



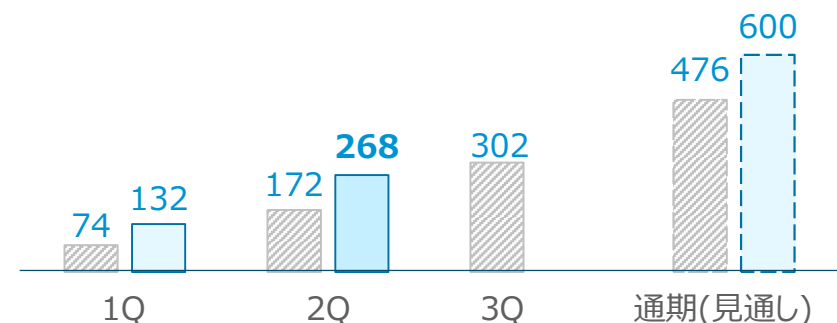
■ 受注高：前年同期比 +18億円

東南アジア地域におけるコンテナクレーン需要が継続しており、「ベトナム向け21基」の大型案件を受注した事などから、前年同期に比べ増加した。



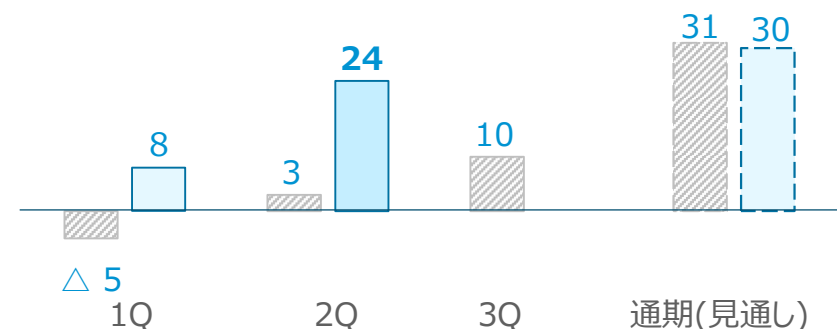
■ 売上高：前年同期比 +96億円

前年度に過去最高の受注高を記録しており、手持ち工事を順調に進捗させた事で、前年同期に比べ増収となった。



■ 営業利益：前年同期比 +21億円

コンテナクレーンにおける新造工事の採算が改善した事に加え、アフターサービス事業も堅調に推移している事から、前年同期に比べて増益となった。



※ 計画の範囲内で進捗しており、通期見通しに変更なし

(単位：億円)

	24年度 見通し
受注高	3,300
売上高	3,000
営業利益	170
経常利益	180
親会社株主に帰属する 当期純利益	350
フリーCF	760
うち営業CF	170
有利子負債	1,000

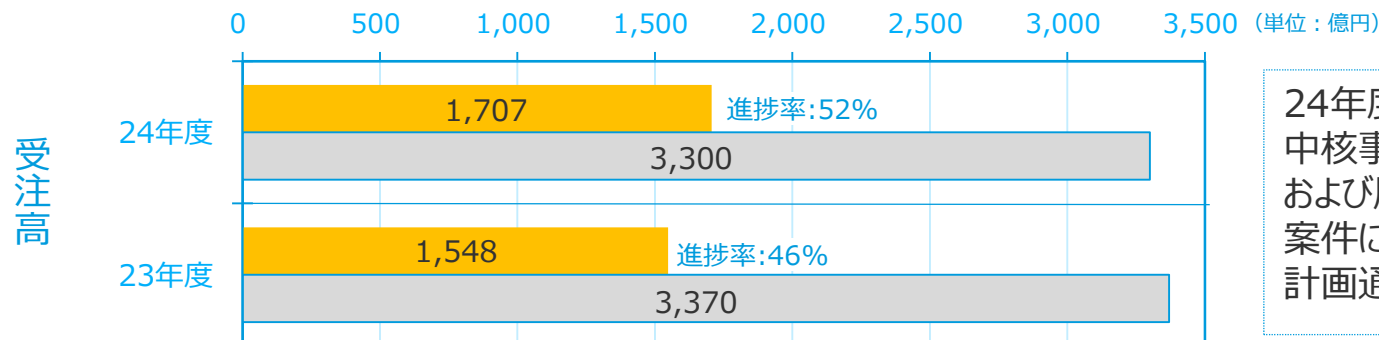
(単位：億円)

セグメント別 24年度 見通し	受注高	売上高	営業利益
成長事業推進	400	400	50
船用推進システム	1,400	1,300	60
物流システム	700	600	30
周辺サービス	800	700	30
その他	0	0	0
合計	3,300	3,000	170

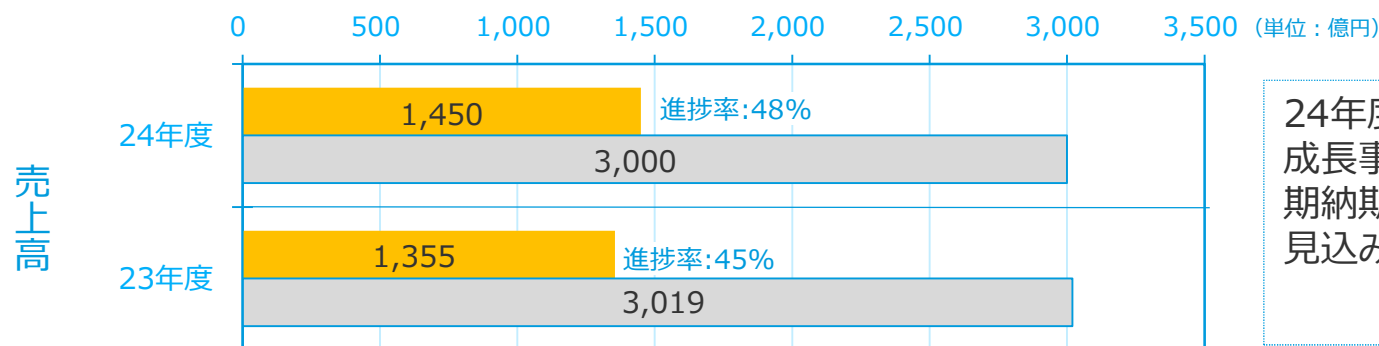
※ 前提為替レート USD=145円

※ 為替ヘッジの進捗により、今年度におけるUSD1円の為替変動が営業利益に与える影響はほぼありません

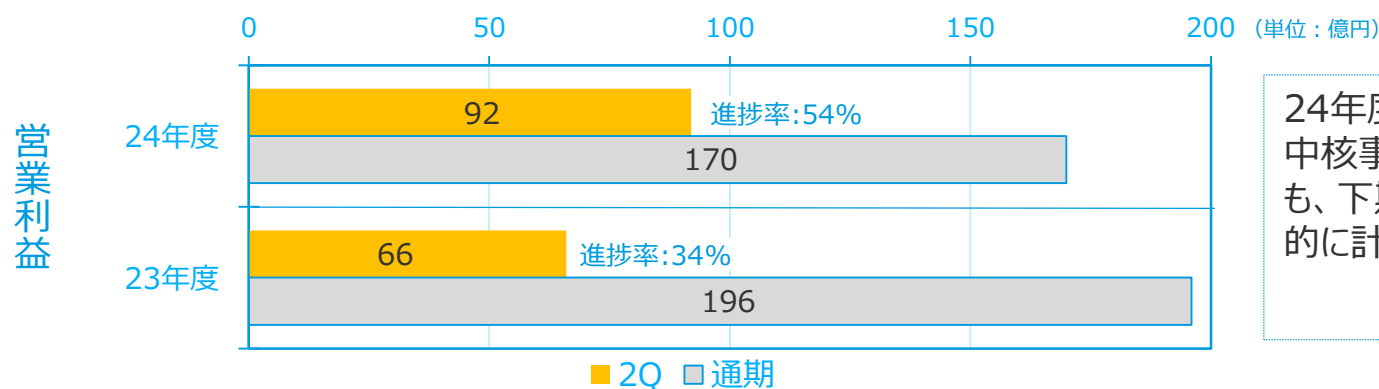
※ 通期業績見通しに向け、計画の範囲内で進捗



24年度 2Q:
中核事業が好調に進捗し、成長事業推進部門および周辺サービス部門は、下期に見込んでいる案件に注力している状況にあり、全体として概ね計画通りに推移。



24年度 2Q:
成長事業推進部門は完成基準工事が多く、下期納期案件の完工により計画の範囲内に収まる見込みとなっており、各部門共に想定内で進捗。



24年度 2Q:
中核事業は好調に推移し、成長事業推進部門も、下期に増収による増益を見込んでおり、全体的に計画の範囲内で進捗。

※ 有利子負債の大幅圧縮と借入金の長短バランスの見直しにより、
P/L（利益構造）とB/S（資産負債構成）を根本的に改善

（単位：億円）

- 海外土木建築工事の資金需要により増加した短期借入金を完済し、金融コスト（支払利息＋支払手数料）を大幅に削減

	2023年度 2Q末	2024年度 2Q末	増減
金融コスト	41	19	△21
支払利息	21	16	△6
支払手数料	19	4	△16

- 短期借入金から長期借入金への借り換えを図り、財務の安全性を確保した

	2023年度 4Q末	2024年度 2Q末	増減
流動資産	2,232	2,238	+6
流動負債	2,804	1,930	△873
流動比率	80%	116%	-

有利子負債	1,620	1,060	△561
短期借入金 ^{*1)}	1,512	604	△908
長期借入金	108	455	+347

*1) 1年以内返済予定の長期借入金を含む

※ 18年度以降キャッシュの流出が続いた海外大口赤字案件が終息

- 海外土木建築工事が完全に終了
- コスト削減施策を強力に推進し、受注工事損失引当金の戻し入れ益を24年度 2Qに7億円計上

	23年度末	24年度 2Q
工事進捗	作業がほぼ完了	完工
受注工事損失引当金残高（億円）	21	0

- 今後とも、中核事業の成長と新規事業の展開に注力して行く

※ 定年延長の影響などにより従業員数が増加

	23年度 2Q実績	23年度 実績	24年度 2Q実績	24年度 計画
設備投資額	38億円	72億円	34億円	119億円
研究開発費	9億円	20億円	6億円	25億円
連結従業員数	5,972人	5,952人	6,078人	-

※ 二元燃料エンジンの陸上試運転設備増強は順調に進捗

	23年度 2Q		24年度 2Q		24年度 見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	66	188	62	197	—	—
売上高	75	153	75	156	—	—
受注残高	100	217	107	273	—	—
生産実績	79	156	64	131	146	304



MITSUI E&S

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。